

在宅医療・介護連携推進事業 医療と介護の連携を深める事業 実績報告

| 資料No | 事業内容 | 事業説明 |
|-------|----------------|---|
| 資料1-5 | 地域医療連携強化事業 | 協議会において作成した「医療と介護の連携ハンドブック」を活用した研修会や、日頃から課題とされてきた精神科と一般科の連携に関しても、シンポジウム形式の研修会を開催し、多数の参加者が集まり、多くのご意見をいただきました。 |
| 資料1-6 | 医療と介護の連携ハンドブック | 在宅医療・介護連携ステーションが実施するご当地連携研修会等でハンドブックを活用した研修会を実施してもらうよう働きかけています。その他にも病院の院内研修会や在宅医療ネットワーク等でも活用しているケースもあります。 いずれは地域でのローカルルール策定にハンドブックを活用してもらいたいとの意図もありますが、アンケート結果からはハンドブックについて「知っているが使ったことがない」割合が約半数となっており、活用に向けても更なる働きかけが必要と考えています。 |
| 資料1-7 | 地域看護連携強化事業 | 広域的な看護職を対象とした研修会の他に、地域ごとに看看連携の取組みを実施しました。研修会の中には、看護職と主任介護支援専門員を対象としたものもあり、相互理解や入退院時の連携を考える機会となりました。また、訪問看護ステーションを中心とした地域での看護職の情報交換会を実施し、連携を強める機会を持つことができました。来年度も継続していく予定です。 |
| 資料1-8 | ご当地連携研修会 | アンケート結果からも、幅広い職種が参加しているが、医師、歯科医師、薬剤師等の参加が少なく、参加者に関する意見もあります。直接事業所に出向いて行う形態の研修も必要と考えており、来年度はご当地連携研修会に位置付けて実施を進めていく予定です。 また、他職種や他機関との連携のしづらさに関する意識割合については「感じる」が21%、「少し感じる」が45%となっており、連携しづらい職種（機関）としては介護支援専門員が医師や病院等医療機関に対して連携のしづらさを感じている割合が高いと言えます。意識割合に関する評価については難しい部分もありますが、連携のしづらさの解消につながる働きかけが必要と考えています。 |